

医科歯科
連携に
ゴーサイン

睡眠時無呼吸症候群 OA治療事業がスタート

第1号は武蔵野市の黒田先生

東京保険医協会と当協会との医科歯科連携事業の一環として、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の口腔内装置(OA)治療の連携が三月よりスタートした。一昨年の秋より東京保険医協会との協議を重ね、昨年四〜五月に両協会の会員に同治療に関する調査を実施。これにより東京保険医協会から名簿提供を受けた百七医療機関に三月十四日、OA治療実施歯科医療機関三十九施設を紹介する案内状を送付した。四月十二日には、「SAS歯科医科連携ニュース(第一号)」を発行し、当会の三十九名の会員に医科医療機関への紹介をお願いする文書と合わせ送付した。



紹介患者は2名

四月九日、東京保険医協

会の会員二名の先生から患者紹介があり、翌日、実際に診察が行われ、これがSASのOA医科歯科連携事業のスタート後、初めてのケースとなった。
ここでは、その紹介患者を治療した黒田敏樹先生(武蔵野市/写真上)を取材し、患者さんの様子や今後の治療などについてうかがった。

黒田先生の話

同じ市内にある連携先の医科クリニックから紹介された六十九歳の男性患者が来院し、しっかりとしたSASの診療情報を持参しましたので、患者さんのお話をうかがい、OA治療の概要

を説明しました。

口腔状態を見ると、装置を作る前に二本のう蝕治療が必要と思われましたので、同意を得て治療し、診から八日後にOA装置を装着しました。

紹介元の先生からは一ヶ月後の効果判定を依頼されているのですが、患者さんは糖尿病治療のため入院することにになりOA装置の調整ができなかったため、どこまで効果が現れるか、とても気になるそうです。

協会には医科歯科連携の足掛かりを作ってもらったので、連携を深めていきたいと考えています。

逆に医科医療機関へも紹介したいと思います。そのためにも、OA効果判定検査を依頼した時、平均的な費用はどれくらいかかるのか教えていただければ、患者さんに説明しやすいと思います。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)OA治療
《医科歯科連携チャート》

